

学校で働く私たち教師が接する相手は、生徒だけではなく、保護者や地域の方にも接するのですが、生徒の皆さんが知らないところで、様々な業種の方とも接しています。

昨日、ある方から電話をもらいました。その方は、私たち教師が主な対象である保険の営業マンです。私はその方に保険のお世話をしてもらっています。

「先生、今日のごあいさつのために電話をかけさせていただきました。本来なら、お会いしてごあいさつ申し上げるべきところですが……。今月をもって、私は会社を辞めることとなりました。」

「えっ、なぜですか。」

「はい、……なかなかノルマが達成できなくて……。」

「ということは……言いにくいことですが、……リストラですか。」

「はい、外資系の会社なので、その辺は厳しく……。」「口調はしっかりしていましたが、恐らく彼は大きなショックを受けていたことでしょう。最後まで営業マンらしく、客の私を大切にしてくれました。そして、次の担当者もよろしくという言葉を残して、彼は電話を切りました。」

何だか切なくなりました。ちよくちよく学校に足を運んでくれた彼でしたが、客の前で見せる笑顔の裏側には、シビアな現実があったようです。電話を切った後は、彼に次の仕事が見つかり、再び笑顔が戻ってくるのを祈るしかありませんでした。

生徒のみなさんは、このことをどう思いますか。進路の学習では、仕事について調べたり話を聞いたりしているでしょうが、こういう現実があるのも事実です。

最近の新聞やテレビ報道では、「戦力外」を通告されたプロ野球選手のことや話題になっています。プロになるために野球だけをやってきた若い選手が戦力外を言い渡された後には、厳しくつらい現実が待っているのです。

実は、私たち教師にはリストラや戦力外の通告はありません。その分、生ぬるい世界で生きていけると言えるかもしれません。しかし、今回の営業マンの電話で、私は気もちが引き締められました。仕事が続けられることに甘えていないで、成果を上げる努力をしないとイケないと改めて強く思いました。

仕事には厳しさがあるということをみなさんに知っておいてもらいたいのですが、今から恐れる必要はありません。学校というところはミスややり直しができるところです。後戻りしたり立ち止まったりして、確実に力を付けていけばよいのです。そのために、幅広く勉強しておくことが大切だと言えるでしょう。